

2020年6月1日

幼保連携型認定こども園 **YMCA 保育園 6月えんだより**

6月の聖句 『あなたがたはそれぞれ賜物をさずかっているのです』

＜ペトロの手紙Ⅰ第4章10節＞

誰も経験をしたことのない災いの中で、特別保育へのご協力や多くのご支援に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。日本だけでなく、世界の国々で感染が広がり、人と人との関係が寸断される状況に、人間相互の不信や危惧に不安を抱えて過ごされた方もいたかもしれません。又、学校においても様々な行事が中止になり、当然あるべきことや期待していたこと、そして夢見たことがなくなり、喪失感を抱いた方もいるかもしれません。わずか数か月の期間で教育の制度変更まで議論に至るような大きな変化に、驚きと不安も持つ方もいるかもしれません。このような時は過去との比較や他者との比較で、羨ましく、妬ましく思い、不条理を感じ、恐れや不満から身を守ろうとする行動が生じやすくなります。神様は一体何を私たちに伝えようとしているのか？と、信仰者でさえ、これは神様が起こした災難だとみる意見もお聞きしました、果たしてそうなのでしょう。

能力があること、成果があることが素晴らしいとみる価値が多く存在します。裏付けや科学的根拠が必要なことは勿論重要なことですが、発展した社会でも、解明できないことが無限大にあることを忘れてはならないと思います。

神様は、私達一人一人をこの世に命をもって遣わし、この世に必要な存在として賜物をさずけてくださいました。一人一人の容姿が異なるように、神様は一人一人に異なる宝物を与えてくださっています。言い換えますと、その宝物（個性、関心、興味、容姿、心身等全て）を他者に正しく使って、生きる責任と使命があり、その目には見えない宝物を、心より感謝して生きることが大切であると伝えられています。しかし、それは、一人で見つかるものではありません。人と人とが交わりの中で気づき、学びながら見出していくものであります。

自分つまらない存在で、与えられた賜物はみじめなものであると感じるのは、比較の中で決める価値で、それが神様の価値だと間違えてとらえる時に生じます。この世界のすべての自然や私達も、神様の与えられた賜物は比較するものではなく、互いを信じる中で認めあい、生かしあい、補いあい、皆のものとなるように願います。とくに今、分断され、恐怖から守られたい人の中であって、そうした思いが大切であると感じます。

年主題聖句 「喜びと平和とであなたがたを満たす」

＜ローマの信徒への手紙 15章 13節＞

6月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	おもしろい	動き出す
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> *保育者や身近な友達と好きなあそびを見つける。 *まわりのものを見たり、触れたりして喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> *神様の創られた自然の不思議さに目を向ける。 *遊びを楽しむ中で、自分の気持ちを伝えようとする。 *友だちや保育者の言動、遊びに心を動かす。
讃美歌	あかるい あさも 幼児讃美歌Ⅰ-1	